

第2回（10月） 会議録（主な意見）

○「与えられた豊かさ」の中で過ごすことによる「想像力の欠如」が、世の中をぎくしゃくさせている要因の一つである。人生初期の青年団やPTA活動において、多くの人がいろいろな役割を担い、「人にお世話をする」経験を積むことが大切である。

○PTA活動にうまく加われれば、その後の社会教育関係団体の活動につながっていく。PTA活動が楽しくないとだめで、活動への参加率を上げることを考えないといけない。

○保育園等の保護者会は、地域やその他の組織の方と初めてつながりが持てる場である。最近では、保護者にいろいろな作業を依頼することなく、職員で済ませることが多くなったが、保護者である若い人たちを育て、その後の団体組織に導くことが大切であると感じた。

○児童に社会参画や社会貢献の意識を培うことも学校の大切な役割だと考えている。

○連携・協働していくには、日頃からよりよい関係を築いていくことが大切であり、現在、社会的な役割としてファシリテーターということがよく言われる。人間関係づくりが上手な人、人の良さを引き出せる人がいることで仲間づくりが進む。

○島根県では、中山間地域のほとんどの高校で、部活動を作って地域の課題に関わることを進めている。それは、未来の青年団、PTA活動に携わる人を育てることもつながるので、一つの手法である。

○全国的には、社会教育の実践交流会はすごく増えており、地域課題への取組について実践を交流することも一つの方法である。実践家たちは実践を求めており、情報化が進んでいる中でも会って話をしたい、熱を感じたいという思いが強くなってきており、大学生や高校生が加わることでさらに活性化している。

○市町が地域の課題解決に向けて、社会教育関係団体を集めて連携協議の場を設定し、取組を推進していくことが有効なのではないか。取り組むテーマについては地域の実態に合うように計画的に設定する必要がある。

○市町の社会教育委員が地域の実情を踏まえて、地域課題への取組等について意見交換することもよい方法なのではないか。